

研究主題

「主体的・対話的で深い学びを通して 教科のねらいに迫る授業づくり」

～国語科「読むこと」の文学的な文章を通して～

第6学年 国語科学習指導案

単元名 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう

「海の命」

■単元の目標

- ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思C(1)カ)
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思C(1)エ)
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思C(1)オ)
- 語句と語句の関係、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知(1)オ)

■読むことに関するねらい

構造と内容の把握

- ・場面構成や登場人物といった設定を押さえて、人物同士の関りと要旨を捉える。

精査・解釈

- ・瀬の主と対峙した太一の葛藤や山場における太一的心情、考え方の変化とその理由を考える。

考えの形成

- ・「海の命」のもつ象徴性について考え、登場人物の生き方について考えを文章でまとめる。

共有

- ・グループで話し合い、伝え合うことで、自分になかった見方・考え方を知り、考えを広げる。

■児童の実態

本学級の児童は、昨年度の「大造じいさんとガン」の学習で表現の工夫や効果に着目して読むために、「大造じいさんの残雪に対する気持ちが一番変化した場面」について伝え合うカード作りの活動することで、学習のまとめとした。9月には「やまなし」の学習で不思議な世界観を捉えるため、自分と友達の考えを対比し、「生と死」の対比である文章の奥深さに気付くことができた。意見を交流することで考えが深まった。また、友達の考えを知ることで、作品に対する考えを深めることができた。

■言語活動

太一の生涯が描かれたこの作品を読み、児童はその生き方や考え方に共感を覚えたり、自分とは違うと感じたりすると予想される。また、太一の成長に関わった人物たちの言動や、そこに表れる人物たちの考え方に対しても、同様の思いを抱くであろう。本単元では、人物の生き方について考え、それに対する自分の考えに影響を受けた人物についてまとめて、プレゼンテーションし合うという活動を設定している。太一が成長の過程で影響を受けた人物についての討論会を設定することで、自分の考えをさらに深めたい。

■単元計画（全6時間）

第1次 学習課題の設定

- ① 単元名と本文を読んで初発の感想をまとめる。
 - ・作品への興味や関心が高まるよう、題名から本文を想像させる。
 - ・全文を黙読し、心に強く残ったところをオクリンクに書く。

取組①

主体的に学習を進めるため、登場人物の生き方を捉えるためにはどんな学習計画が必要か、子供に投げかける。

第2次 読み取り・読み比べ

- ② 自分と友達との初発の感想の相違から、学習計画を立てる。
 - ・物語の設定と内容の大体を確かめる。
 - ・登場人物 ・人物像 ・人物関連図
- 瀬の主と出会い、太一の心情や考えが何によってどのように変化したのかを考える。
 - ・太一の考えが大きく変わったこの部分が物語の山場であることを押さえ、太一の心の葛藤が生まれたのはなぜかを問う。
 - ・太一が瀬の主を打たなかったわけを考える。
- ③④ 登場人物の行動や会話などから父、与吉じいさ、母の人物像と、太一の生き方に大きな影響を与えた人物を考える。
 - ・登場人物ごとにグループに分かれ、オクリンクを作成する。
 - ・叙述に注目し、考えの基となる根拠を明確にすることを伝える。
 - ・ポイントとなる言葉「村一番の漁師」に着目し、太一の生き方を象徴した言葉であることを押さえる。

第3次 交流

- ⑤⑥ 登場人物の生き方について考えをまとめたオクリンクで提示しながら、討論会をしよう。
 - ・父、与吉じいさ、母の言動などの観点を示して考えるようにする。
 - ・友達のことを聞き、考えたことや感じたことを伝え合う。
 - ・討論会を行った感想を、オクリンクを使って共有する。

取組②

登場人物の関係をとらえ、太一の生き方について最も影響を与えた登場人物は誰か、グループに分かれて作ったオクリンクを提示しながら討論会をする。

■学習指導過程（5/6 時間）

- 1 学習の見通しをもつ。
 - ・登場人物の生き方について自分の考えをまとめたオクリンクを使って討論会を確認する。
 - ・自分の生き方・考え方と比較して考える。
 - ・深い学びになるためにどうすればよいか子供たちに投げかける。

・討論会をするためには、それぞれの登場人物の「海に対する姿勢」「漁師としての生き方」「海の命に対する考え方」などの観点を示して、伝えるようにする。

- 2 自分たちの考えを他のグループの友達と討論する。
 - ・グループで意見や根拠となる場面を提示する。
- 3 他のグループの発表を聞き、自分たちの考えとの相違点などについて意見を出し合う。
 - ・どのような意見が心に残ったか、どんな言葉で考えがどう変わったかなど、具体的に発表する。

- ・討論会の方法について確認する。
- ① グループの友達と一緒に作ったオクリンクを使って「一番影響を受けた人物は～だと思います。なぜならば～」という形で伝え合い、話し合う。
- ② 違う立場の意見を聞くことで自分の考えを深める。
- ③ 互いの提案に対する感想を伝え合う。

- 4 本時の学習を振り返る。
 - ・他のグループの意見を聞き、登場人物の関係やそれぞれの生き方について、みんなで考えて話し合うことで、考えを深める。

◇登場人物の生き方について考え方をまとめ、他者と考えを共有して、自分の考えを広げようとしている。(オクリンク)

意見交流(討論会)

取組③

友達と自分の「太一の人生観」を比較し、再度自分の生き方と対比するようにつなげていく。

・・・学習内容と活動

・・・指導、支援

◇ 評価

教師が主体的・対話的で深い学びの視点を明確にもち、児童に三つの資質・能力を育むために授業改善を行っていけば、教科のねらいに迫ることができるであろう。

主体的・対話的で深い学びの視点

- ① 児童が学習のねらいを意識して学習する。
- ② 児童が友達との意見交流に必要感をもって対話している。
- ③ 友達との意見と自分の意見を比較・関連付けてより深く理解している。

本時における具体的な児童の姿

- ① 学習のめあてに到達するための学習計画を考える。
- ② 自分の意見と友達の意見を伝えあう活動を取り入れる。
- ③ 友達の意見と比較し自分の考えを深める。

三つの資質・能力を育むための授業改善の取組

《自主的に学習計画を立てるための工夫》

- ① 単元名とリード文を読み、人物の生き方について学習する見通しをもつ。「やまなし」の宮沢賢治の生き方や国語の既習事項を想起し、児童が自分たちでめあてにせまれるような学習を進めていくようにする。
 - ・「海の命」という題材と挿絵からイメージを膨らませ、初発の感想から登場人物の生き方に強く影響を受けていることから、人物相関図の必要性に気付かせる。
 - ・キーとなる言葉に注目し、登場人物の心情を掘り下げるように読み深めることができるようにする。

《対話的な学習の工夫》

- ② これまで学習してきたリーフレット作りの経験を活かし、自分の考えや意見を友達に効果的に伝えるような構成を児童から意見を出してまとめる。
 - ・叙述を基に、それぞれの人物像と相互関係について想像し、パワーポイントに工夫してまとめるようにする。

《深い学びとなるための工夫》

- ③ 友達の考えや意見を知ること、自分の考えを深める。
 - ・家族との関係、尊敬できる人物との出会い、自分の考えを大きく揺さぶる出来事との出会いや葛藤など、登場人物に自分を重ね、さまざまな考えや思いをもつようにする。
 - ・物語を通して、自分を支える人物の存在を再認識し、他者との関係性を見直したり、自分の生き方を見直したりすることにつながる。